



紀平真理子のオランダ通信

第32回

国連SDGsと 認証ラベルの活用

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペイン語学専攻卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてにおいて実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

昨年10月にロッテルダムで行なわれたMax Havelaar主催のSDGs（持続可能な開発目標）に関するイベントに参加した。2015年に国連により国際目標であるSDGsが採択されたことにちなみ、MDGs（ミレニアム開発目標）の反省と今後15年間について考えるためのイベントとして大いに盛り上がった。

SDGsは大きく分けて経済・社会・環境分野合わせて17の目標と169のゴールからなる。

Max Havelaar（またはオランダ商社のコーヒーオークション）とは1860年に出版されたオランダの古典小説であり、19世紀、20世紀初頭の東インド会社による植民地での強制栽培制度を告発し、主人公が地域の農民のために立ち上がる話である。

フェアトレードの認証ラベルで有名なMax Havelaarはこの小説から来ている。1988年に発展途上国との取引においてフェアな価格を維持するため、オランダでMax Havelaar財団は設立された。

認証ラベルはオランダでもサプライチェーンや地域振興のために重要視され、さまざまな目的と基準がある。まずサプライチェーンに必要なキーワードは3P（People/Planet/Profit）と3E（Environmental/

Economical/Social Equity）である。そのうちSocial Equity（社会的公正）に重きを置いているのがMax HavelaarやUTZ認証のフェアトレードであり「Environmental（環境）重視がEKO、Bio、AB、Demeter認証などのグリーントレードだ（表参照）。

3PのPeople（人）は生産者だけでなく流通業者や消費者など、人々の生活上を目指すこと、Planet（地球）は環境破壊を最小限にし、自然と共存することを示している。さらに、Profit（利益）には取引価格だけでなく、生産者がトレーニンングや情報を得ることでコストや労力の削減につながる意図がある。中間商社などもトレーサビリティが可能で安全な製品を求める市場ニーズに応えられることがProfitといえる。

この認証とSDGsをリンクさせて製品にどう価値をつけていくかというところが重要である。イベントではプレゼンターがCo-creation（価値共創）やマルチアクターアプローチなどについて幾度も発言し、「今後は国家、民間、NPOや専門分野を問わず皆で価値をつくっていきましょう」と語られた。

感じる部分もあったが、一方でアイデアと慈善事業で終わらず貪欲に経済活動をしていく姿勢はすばらしいと思う。

認証ラベルや政策などは少しのアイデアと工夫で新しくユニークな取り組みが生まれる可能性が大いにある。

フェアトレードとグリーントレードの違い

基準の違い	フェアトレード	グリーントレード
例	Max Havelaar	EKO
People（人）	労働環境 子ども労働禁止等	雇用 社会とのつながり
Planet（地球）	環境面で健全な製品	有機肥料 クロープローテーション 播種時の用具 露地栽培等
Profit（利益）	最低価格の保証 長期にわたる取引関係 生産者団体の経済強化	高労働賃金 高出荷価格